

庭木に利用する樹種の特徴と管理 ～ アセビ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

春先に小さな花をたくさん咲かせる樹木の1つにアセビがあります。我家の庭にも1本のアセビがあり(写真1)、毎年たくさんの花を咲かせています。今回はアセビについて紹介します。

1 特徴

アセビは、小さな花を房のようにたくさんつけるツツジ科アセビ属の耐寒性の常緑低木です。漢字で馬酔木と書きますが、ツツジ科特有のアセボトキシンという有毒成分が含まれているため、馬が食べると神経が麻痺し酔ったような状態になることに由来しています。かつては葉を煮出して殺虫剤としても利用されていました。

花はスズラン(鈴蘭)やドウダンツツジの花に似ており、下垂して白または桃色の花を咲かせ(写真2)、秋にはさく果となり(写真3)、この中に種子があります。

古くから親しまれた樹木で、庭木や盆栽などに使われています。

2 維持管理

乾燥しすぎず、水はけがよい土壌で、午前中は日が当たる半日陰か、日なたが適しています。日陰でも比較的よく生育しますが、花数は少なくなります。

庭植えの場合、水やりは特に必要ありません。花が終わり、新芽が伸び出す前の3月下旬から4月上旬に、緩効性化成肥料を施します。また、花芽分化が終わり、涼しくなる9月下旬から10月下旬に、春と同様の肥料の半量を施します。



写真1 我家の庭に植栽されているアセビ(2024年11月26日撮影)

剪定は開花後の

なるべく早い時期に花がら摘みを兼ねて軽く刈り込み、樹形を整えます。また、枯れ枝や重なり合った枝は、基部から切って風通しをよくします。太い切り口には、枯れ込むのを防ぐために癒合剤を塗りましょう。

我家では施肥や剪定等はほとんど行っていませんが、毎年花が咲いていますので、放任状態でもよい樹木ではないかと思います。



写真2 アセビの小さな花(2011年3月24日撮影)



写真3 アセビのさく果。(2024年11月26日撮影)